

# ほとほとに えねるぎっしゅ

**あすかエネルギーフォーラム** (代表 秋庭悦子)

〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町 2-8-4 日本橋コアビル Tel&Fax03-3639-5518

“エネルギートークサロン in つるが” 2002.3.4 エネルギートークサロン in つるが  
『広げよう 生活者のエネルギーネットワーク』

あすかエネルギーフォーラム代表 秋庭悦子

2002.3.4 に福井県敦賀市で開催いたしました「エネルギートークサロン in つるが」には、地元の敦賀、福井をはじめ、大阪、柏崎、福島と各地でご活躍のエネルギーネットワークの皆様 44 名にお集まりいただき、誠にありがとうございました。エネルギー問題について関心を持つ生活者を増やし、活動を発展させるためにどのように取り組んで行くべきかなどについて、既にご活躍中のネットワークも、これから活動しようとするところも、一緒に考える機会にしたいと思い、呼びかけさせていただきました。

おかげさまで、それぞれの地域での活動の様子や課題について、地域、年齢を越えて熱心に話し合うことができました。まずはネットワーク間のコミュニケーションをはかれたことを嬉しく思っています。この会で得た様々な知恵を生かし、各地でさらに活動を発展させていただければ幸いです。

これからも参加団体を増やし、このような会を継続、発展させることにより、全国に生活者のエネルギーネットワークが広がることを願っています。

## アン・S・ビスコンティ博士の 講演『将来の世代とエネルギー』概要

ビスコンティ博士の講演は、2日前に“エネルギートークサロン in かしわざき”で行われた講演後の質問内容を受けた話からスタートしました。柏崎の出席者たちの関心が深かった教育について「アメリカでは、電力生産地において特別のエネルギー教育は行われていません」、またエネルギー問題に対して「深く考えている人、関心をもつ人は少ない」とのこと。あらためて日本の国民感情との違い、温暖化対策への姿勢が異なる背景がうかがわれました。

80年代の前半以降、アメリカでは原子力を支持する人、安全性を信頼する人が増加。発電所近くに住む人ほどその支持率は高く、運転更新を支持する率も高くなっているそうです。その理由は、電力供給が信頼できる、中東への石油依存度の低減になる、大気を汚染しないから。特に地元で支持が高いのは、地域の経済や社会活動への貢献、環境への配慮のためと分析されています。

アメリカでは現在、電力の50%が石炭、20%が原子力、16%が天然ガス、7%が水力、3%が石油、2%が地熱・太陽光・風力によるものですが、2020年までに電力需要は44%増えると予測され、省エネだけでは対応できません。

原子力に対する意識の好転は、安全性の向上によるもので、80年以降、原子力発電所の予定外の運転停止回数は激減、作業員の事故やケガの割合は他の製造業に較べても大幅に少ないことが証明されているそう。人々が重視しているのは、安全性、環境の保護、石油の輸入依存度の低減、将来の世代への責任とのことです。  
(文責:高橋峰子)



### アン・S・ビスコンティ博士 プロフィール

ビスコンティ・リサーチ社社長。1940年11月22日生まれイリノイ州シカゴ出身。米国の原子力産業界が実施する研究の責任者、シカゴ科学アカデミー、エジソン電気協会、米国科学基金、米国エネルギー省などの委員を歴任。先駆的な社会科学的研究で世界的に知られている。子ども2人、孫2人がいる。

## 熱気いっぱいのテーブルトーク

敦賀エネの会、福井エネの会、LEE NET(大阪)、わかばの会(柏崎)、あすかエネルギーフォーラムの5団体 44名が6つのテーブルに分かれ、それぞれの活動紹介を通して「ネットワークを広げるための課題」「私達の活動を生活者に伝えていくにはどうしたらいいか」を熱く語り合いました。



## テーブル紫陽花

・風評被害がある。新聞等のマスコミによる影響が大だが、勉強不足の駆け出しの記者が書く記事に問題がある場合がある。

・もんじゅのナトリウム漏れ事故の時は『敦賀の魚は汚染されている』と言われ大変な被害があった。また、同じ福井県の中でも発電所のある地域から来たお嫁さんに子どもが生まれないと、『原子力発電所があるから』と言われる。もっと正しい知識を持ってほしい。

・電源三法交付金によるお金を取らないと損だという風潮があるようだ。地域振興のためのお金を交付される地域は、交付されない地域から妬まれている。

・原子力施設にリスクがあるのは当たり前。小さい事故があるからこそ安全に注意が向き、安全が保たれている。同様に反対派がいて反対からこそ、さらに安全に操して業されるのだと思う。皆が賛成では危なくてしょうがない」



## テーブル桜



・ペレットとかカタカナ語が多く、言葉のひとつひとつになじみがなくて難しい。普通の言葉で伝える努力が必要だと思う。

・月に一度家族で省エネの日を実施。停電を経験して電気のありがたさに気づかせている。家庭で子どもや孫に伝える努力をしている。

・敦賀エネの会では月一回のペースで勉強会をしている。最近印象に残ったのは、放射線についての勉強会。

・ガールスカウトの活動や、暮らしとエネルギー学習教材を中学校へ提供するなどの活動をしている。同じことを言い続けることが大切。

・紙芝居などをつかって子どもたちに働きかけていくことが大切だと思う。

・自分が関わっている生協グループのなかで、環境・エネルギーのことを発信している。

・女性ばかりなのは良くない。女性が出られるようになったのは理解ある男性と電気のおかげ。出前講座は、中学・高校に出かけるので反応が直に見られ、自分たちにも勉強になる。



大好評の紙芝居「あかりとみらいのおはなし」を実演する福井・敦賀女性エネの会のメンバー

## テーブル桃

・原子力発電をわかりやすくして学校に持っていこうと考えている。週5日制になるので、地域に出ていって子どもたちを啓発したい。

- ・消費地、生産地というが、そういう時代ではない。両方が情報交換し交流することが大切だ。
- ・福井県の嶺南は原子力発電所があり関心が高いが、嶺北の人に関心を持ってほしいと立ち上げられた福井エネの会。会員は300人いるがまだ関心は薄いので、会員を地道に増やしたい。
- ・LEE NETは機関紙を発行するようになった。本や新聞は見てもらえないことが多いので、話をするのが一番いい。自分の思っていることを伝えていくのがいい。
- ・原電には正確なことを正直に教えてほしい。
- ・自分でもっと勉強しないと人に伝えられないと感じている。原子力エネルギーは本当に必要か、危険か、爆弾を落とされたらどうなるか、プルサーマルのこともあり、自分自身で勉強してから、子どもに教えていきたい。



#### テーブル山百合

- ・JCO事故、もんじゅの件以来、『若狭の魚は食べられない』などの風評が立ち、地元の私たちが惑わされないよう勉強する必要性を痛感。最初から賛成反対ではなく、自分たちの考えを持ちたいと思った。エネルギーアドバイザー養成や紙芝居の制作はその一環である。
- ・柏崎モニター制は4～5年前から実施。リタイアした男性を含め、現在15名ほど。市内のカルチャホールは2カ月に一度映画を上映し市民の憩いの場として利用され始めた。市民感情の緩和、教育に役立っている。
- ・敦賀にも原電ふれあい館、アクアトムなどがあり利用されている。次世代を担う子どもたちのために、正しい知識を伝えたいと思っている。

- ・生まれたときからある原発は、自然に生活にとけこんでいる。テロ後は、安全性への不安感が高まった。正確な情報がさらに必要。
- ・この2～3年勉強会などを通し、知ろうという姿勢が盛り上がっている。風評被害に惑わされないよう、教育の必要性を痛感している。

#### テーブルパンジー



- ・40代くらいの人の中に、どこからもらった理由で、反対のための反対をする人が多い。特に教師が自分の考えを押しつけるのは問題だ。

- ・消費地の人に『申し訳ない、すまない気持ちでいっばい』と言われてもうれしくない。生産地は電気をプライドを持って送っている。
- ・賛成・反対と分けて、二者択一は良くない。
- ・マスコミが不公平。反対派を大きく扱う傾向がある。情報をどう得るかが問題だ。
- ・原子力発電の事故でなくても原子力産業の中での事故は、一般には同列に考えられてしまう。
- ・大阪と福井の交流も3回目位から親しくなり本音が出るようになった。継続してネットワークを広げていきたい。
- ・敦賀エネの会は月に1回、初歩的な勉強会をしている。水戸であった『日本女性会議』は有識者の集りなのに、敦賀のお魚には奇形が...と言われショックだった。事実を広げる必要性を痛感、勉強も必要だ。上から構えるのではなく、普通のオバサンとして、エネルギーや環境問題を話していくのがよいと思う。



テーブルを囲み話も弾んだランチパーティーのひとつ

## テーブル菖

・福井女性エネの会では、エネルギーアドバイザーの第1期生20名が受講で得た知識を地域に広めるために紙芝居を制作。公民館、町内会、子供会などで活動を予定している。2期生は、紙芝居と一緒に持っていく副読本を考えている。

・関西女性エレの会では当初パネルを制作したが、持ち運びに不便なので本にした。しかし本を配布すると先生が説明しなければならないからか、配布をいらないと言う先生もいる。子どもより、まず先生への教育の必要を感じる。

・柏崎では、子どもたちの発電所見学が多い。

・敦賀では子どもたちの原子力発電所見学は少ない。教師が無関心なため、学校の取組みが少ない。家庭でのエネルギー教育が必要だ。

・発電所の周辺地域には情報が多いが、消費地では無関心な人が多いのでは。福井県でも嶺北と嶺南では意識が違う。

・プルサーマル住民投票の時、反対派のチラシ説明のほう  
がわかりやすかった。賛成・  
反対に揺れ動く人たちにわ  
かりやすく伝えることが必要。  
ツールとして省エネカルタが  
有効では。



## “エネルギー トークサロン in つるが” 参加の5団体の紹介！

### 福井女性エネの会

平成8年、県下市町村女性ネットワークに呼びかけ発足。現在会員は334人。学習会や関西女性エレの会との交流会、広報紙発行など活発に活動。エネルギーアドバイザー養成講座を開設し、現在2期生終了。消費者への情報提供のツールとして紙芝居「あかりとみらいのおはなし」を制作、意識啓発に努めている。5月より開始して県下100会場で上演。

### 敦賀女性エネの会

平成10年、敦賀市内で活動している女性グループのリーダーを中心に発足。現在、会員20名。久保寺昭子先生の放射線勉強会など毎月勉強会を開催。

## わかばの会

平成10年から柏崎で東京電力が公募した「原子力モニターの会」のOB会。

総会の季節とこれから育っていくという意味にちなんで「わかばの会」と命名。現在会員63名。毎年、勉強会と施設見学会、講演会などを実施。

## LEE NET

昨年7月、「暮らし・環境・エネルギー」に関する教育を活動の主目的にするNPO法人として発足。勉強会や見学会を開催。学習教材「わたしたちの地球」を制作、小学校へ配布している。また、情報紙「エコ・キャビン」を隔週FAX配信。



## あすかエネルギーフォーラム

「あすか」は、Advisory Specialist for Consumers Affairsの略称。エネルギー問題に関心を持つ消費生活アドバイザーのグループです。企業・行政と消費者のパイプ役として、また生活者と生活者をつないで行動する、ゆるやかなネットワーク。なお消費生活アドバイザーとは、1980年にスタートした経済産業大臣認定の公的資格です。



気比の浜を散策するあすかメンバー

エネルギー・環境問題や、私たち『あすかエネルギーフォーラム』の活動に興味をおもちの方に、今後発行するニュースレター“えねるぎっしゅ”をお送りします。ご希望の方はご連絡ください。

あすかエネルギーフォーラム事務局  
〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町2-8-4  
日本橋コアビル  
Tel&Fax 03-3639-5518